

国語

問い合わせ別の用紙があります。また大問は全部で三問あり、【二】の問題は【一】の問い合わせの後にあります。答えはすべて解答用紙に書きなさい。
なお解答用紙は表と裏の両面にあります。

【一】次の文章を読んで、別の用紙の問い合わせに答えなさい。（出題にあたり一部表記を改めました。）

人は初対面の人と話すときには10分間に3回ウソをつくという研究結果があります。

マサチューセッツ大学で心理学を研究している①ロバート・フュルドマン教授が行った実験です。初対面の※被験者を集め、「10分間で親しくなってください」と伝えて話をしてもいます。その様子を録画し、後から被験者にそれぞれ自分の発言で不適切（「ウソ」というと言いつらくなるのでこう表現したそうです）と思われる箇所を指摘してもらつたところ、100人以上の実験で平均して一人3回の不適切箇所②ウソがあつたと認めたのです。

この結果に驚かれる人もいるでしょう。

でも、正直なところ私の実感としては、人間はより多くのウソを、ほぼ無意識のうちに口頭から使つてしまつてゐるよう思います。
ウソというと、相手を騙したり、陥れたりするためのものであり、けしからんものと思われがちです。□Ⅱむしろ相手とより良好な関係を築き、※互恵的なコミュニケーションをとるのにウソは必要だと、被験者たちは感じていたということを、この実験は浮き彫りにしたのではないでしょうか。また、ウソは、自分が疑われたり、攻撃されるのを避ける「保身のため」や、好かれたい、褒められたいという「承認欲求を満たすため」、さらには相手を傷つけたくないという「思いやり・気遣い」から生じるものも多いはずです。

□Ⅲ、大事な人と会う約束をうつかり※失念してしまつたとき、理由を問われたら「約束を忘れていました」と正直に伝えるよりも、「口付を間違えてしまつていて……」もしくは「体調を崩していて……」などと伝えるほうが□Ⅳが立たないと思う人は多いでしょう。

新しい服を着てきた友人に對し、本心ではあまり似合つていないと思ったとしても、「それ、君には似合わないよ」ともし言つたとしたら、二人の関係は少しギクシャクしたものになつてしまいかねないのでないでしょうか。もちろん、「そんなことで私たちの友情はビクともしない」と自信をもつている人も少なからずいるとは思いますが……。

「正直に話すことはいいことだ」と教えられてはいても、ありのままに伝えることで相手に不快感を与えた、「いやらぬ誤解を与えて面倒なことになつたり」という経験を繰り返して、私たちは「②大人」になつてきます。本音を口にするリスクを考慮し、当たり障りのないウソをつき、会話の自然な流れを促して時間を節約し、できるだけ良好な人間関係を③キズくことのできる人が、社会性の高い人であると見なされることが、人間のつくる社会の④暗黙のルールとして存在するのです。

また、状況次第では、事実を伝えることが非常に困難になるケースもあるでしょう。
例えば、ステージ4のがんであると診断された患者に対し、今後の治療法について話すとき。もしあなたが担当医師だったとしたら、それが事実だとしても、「治療法はもうありません」あるいは、「この状態で3か月後まで生きられた事例はこれまでありません」と面と向かって言えるでしょうか。それはかなりの心理的負担を伴うと思います。

患者が受ける精神的ショックや、そのご家族の立場・心境を考えると、「厳しいかも知れませんが、希望はあります。私も全力を尽くします」などといった、相手を勇気づける言葉をかけることを優先する場合は多いでしょう。
99%絶望と思われるとき、1%の奇跡を願う⑤ヨチを残すためにつくウソは悪でしょうか。希望をもたせるための、善意のウソは否定されるべきでしょうか。時には、「そのウソ」に力を得て、想定外の結果に到達することもあります。

ウソという言葉を善悪で捉え、ウソを戒める倫理・道徳は⑥ココン東西、様々な形で存在してきました。これは、それだけ人間社会にウソが多いということの裏返しでもあり、人間がそのままにしておけば、※フェイクに満ちたコミュニケーションばかりをとるようになりかねないという基本的な性質をもつことを考えれば、⑦やむを得ないのかかもしれません。

とはいっても、人は確かに信じている人に欺かれると、信頼を踏みにじられた気持ちになり、深く傷つくものです。ウソは人間同士の美しい信頼関係をも破壊しうるものです。※狡猾な手段で人の弱みに付け込み、ウソをついて※搾取しようとする人を簡単に許すべきではありません。一方で、人間が共同体の中で生きていくには、ウソは必要不可欠である……。ウソの※淵源にあるのは、単なる悪意だけではなく、⑧私はちはその狭間で苦しみます。

⑨この苦しみは、人間が社会性をもつて存在する種であり続ける限り、根本的に解消されることはないでしょう。この状況の中で、最も価値的なあり方を摸索するとしたら、それは正直さとウソをつくることのリスクとメリットを考え、上手に選択できる術を身に付けることの中にがあるのでないでしょうか。

※被験者…実験の対象になる人。 互恵…互いに利益を与えること。

狡猾…するく悪賢いこと。

搾取…他人の権利や利益を不正に侵害し、取得すること。

淵源…物事が成り立っているおおもと。本源。

（中野信子『フェイク』より）

【二】次の文章を読んで、別の用紙の問い合わせに答えなさい。（出題にあたり一部表記を改めました。）

ユウスケとミカは双子のきょうだいで、コウジは二人の友だちである。ある日、ユウスケは、小学校でユウスケとミカの仲の良さをからかうよな悪口を耳にした。

「用事つて言うほど大事なことともちやうけど」

いや、大事なことだ。こんなふうにこまかしてしまったら、何のため①急いでコウジの家にやつてきたのかわからない。

「いや、やっぱり大事な用事。ちょっとだけ大事な話や」

「なんやねん、はよ言い」

「あなのな……」

「ぼくはゆつくりと、初めから話をした。

いつかコウジにも聞いたとおり、クラスでぼくとミカのことを変に言うやつらがいるということ。本人の前じやないからって、すごく勝手なことを言っていること。そんなことをもしミカが知つたら、きっとそのうわさを流したやつを見つけ出して、ぜつたにケンカしてしまうだろうということ。だからミカに知られる前に、そんなうわさを流したやつを見つけて、もうこれ以上勝手なことばかり言わないように言ってやろうと思っていること。

あやまつてほしいんじゃなくて、とにかく勝手な話を流さないと約束してもらえれば、それでいいっていうこと。

そこまで話して、ぼくは一度②つばを飲み込み、ちよつと休憩した。

それから、一番大事なことを言った。つまり、そういううわさを、

コウジが流しているかもしれないと聞いたっていうこと。

今度は、それを話しただけでも、すぐにのどがカラカラに乾いて、ぼくはまたつばを飲み込んだ。

「……せやけど、ぼくかってその話は聞いただけのことやし、よお

わからん。だから、ほんまにコウジがそんなこと言うてたんか、聞きにきてん」

「もし、まちがいやつたらどうするんや」

コウジは怖い顔をして言った。「そんなん、俺は言つてへんかったら?」

「そんときは、疑つたからあやまる」

「あやまるだけやつたらゆるせへんつて、俺が言うたらどうすんねん」

「もつとあやまる……ほんと、※通信ケーブルをコウジにあげる」

ぼくは言った。でも、コウジは何も答えてくれなかつた。ずっと長い間、下を向いていたので、きっと怒つてしまつたんだろうと思つた。ぼくが疑つていたので、きっとコウジは怒つてしまつたんだ。

でも、とつぜんコウジは顔を上げて言った。

「ごめん。俺が言つた」

③何も言えなくなつた。このまま一生、言葉がしゃべられなくなつてしまふんじやないかとさえ思つた。

「言い出したんも、俺やと思う」

「わからん。たまたま女子と話しつつて、ユウスケとミカは仲がえなつて言われたから、女子を笑わせよ思つて言うてもうた。ほん

で、おんなじことをほかの女子にも言つて、そのうちみんな知つとつた」

そこまで言つと、コウジはもう一度ごめんと言つた。だけどぼくは、④とてもゆるしてやれるような気持ちになれなかつた。いくあやまられても、ゆるせなかつた。

「ごめん。ほんまにごめん」

コウジは立ち上がり、本棚のところに置いてあるゲームソフトを、ひとまとめにしてぼくに見せた。

「俺、通信ケーブル持つてへんから、代わりにソフトをユウスケにやる。どれでも好きなん、持つてつてええわ」

「そんなんでだまされへんぞ。ぜつたいゆるせへん」

「でも、ユウスケかつてそう言つたやろ? ゆるしてくれへんかつたら、それでもあやまつて、通信ケーブルをあげるつて」

「それはそれ、これはこれや」

自分でも何を言つてるのかわからなかつた。確かにぼくは、コウジがゆるしてくれなかつたら、たくさんあやまつて、通信ケーブルもあげるとは言つた。だからぼくも、反対にそうされれば、ゆるしてやらないといけないことはわかつている。

でも、何だかゆるせなかつた。⑤するいけど、やっぱりコウジの場合はゆるせない。

「ずつとだまされとつた。コウジは、ぼくやミカのことが嫌いやつたなんて、一度も気づかへんかつた。そうや、それで今日、ミカのことも殴つたんやな」

「それはちやう。ぜつたいにそんなんとちやう。だいたい、殴られたんは俺や」

「でも殴ろうとした。やっぱり嫌いやからや」

「ほんなら、ミカの前でそう言えるか?」

「ちがう!」

「ほんなら、ミカの前でそう言えるか?」

「ミカのことは好きや」

「じゃあ、ぼくだけが嫌いなんやな?」

「ちやうねん。ユウスケは友だちやから好きやねん」

コウジはゲームソフトを持つたまま、そう答えた。「で、ミカは女の子やから好きや」

「だから、俺はミカのことが好きやの。俺の好きな人はミカやの」

「だつて、ミカつて……オトコオソナやぞ」

「うん。みんなそう言つてわかつてるんやけど、でも俺は好きやねん。そやからミカの前で、好きやとか嫌いやとかは言われへん。友だちとして好きつてことやつて、あいつの前ではよう言わん。恥ずかしいし、カッコ悪い」

「……ほんなら、なんで好きなやつのこと、そんなふうに言つんや」

「わからへんねん、自分でも。なんかわからんけど、好きやから嫌いになるときもあるんや。ミカがほかの男子としゃべつとつたら、な

んでかわからんけど腹立つ。ときどき、ユウスケにも腹立つ」

⑥お前はやつぱりアホや

ぼくはそう言つと帰る準備をした。コウジがあげるつて言つたゲ

ームソフトにはすぐ⑦ひかれたんだけど、もしこれをもらうと、コ

ウジをゆるしてしまうことになるから、もううわけにはいかない。

「なんやの、ユウスケ。もう帰るんか?」

「帰る。コウジかつて、これから塾やろ」

「今日は休む。なんか勉強したないわ。一緒にゲームしよ

「しない。それに、そんなんしたら、コウジのおばちゃんに怒られ

ばくはそう言つて部屋を飛び出してしまつた。

「そんなんどつちでもええ。ぼくは、遊びたないんや」

「そんなんどつちでもええ。ぼくは、遊びたないんや」

本当はぼくがそんなことを言つたんだから、すつきりしていいはずなのに、反対に悲しくなつてきた。コウジをゆるしてあげない⑧自分が悲しいのか、それともうわさを流したやつがコウジだったことが悲しいのかわからない。でも、とにかく悲しかつた。

（伊藤たかみ『ミカ!』より）

【一】の問い合わせ

問い合わせの用紙

問一 —— 部①から⑦のカタカナをそれぞれ漢字に直しなさい。

問2 —— 部①「ロバート・フルドマン教授が行つた実験」の結果から証明されたことは何ですか。解答用紙の空欄に合うように説明しなさい。

問3 □I、□II、□IIIに当てはまる言葉の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選んで、記号で答えなさい。

- | | | |
|----------|--------|---------|
| ア I…そして | II…例えば | III…また |
| イ I…なぜなら | II…例えば | III…また |
| ウ I…そして | II…しかし | III…例えば |
| エ I…なぜなら | II…しかし | III…例えば |
| オ I…そして | II…しかし | III…また |

問4 □Xに当てはまる言葉として最も適当なものを、次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 心 イ 齒 ウ 頬 エ 角 オ 家

問5 ……部④「いらぬ」の「い」の意味として最も適当なものを、次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア とりとめがない イ 必要のない ウ 効果のない エ 問題のない オ きりがない

問6 —— 部②「大人」とありますが、筆者の考える「大人」とはどのような人のことですか。四十五字以内で説明しなさい。(句読点も字数にふくみます。)

問7 —— 部③「暗黙のルール」とありますが、「暗黙のルール」として適当でないものを、次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 反対意見が出ない場合、内容を承認していると見なされる。
イ 解答を書き終えても、試験時間が終わるまでは席を立たない。
ウ お店に入店する時や会計の時には列を作つて並び、順番を待つ。
エ 電車やエレベーターの出入り口では、降りる人が優先である。
オ 二十歳になつていないので、さぞれてもお酒を飲まない。

問8 —— 部④「やむを得ない」とありますが、筆者はどのようなことを「やむを得ない」と考えていますか。二十字以内で説明しなさい。(句読点も字数にふくみます。)

問9 —— 部⑤「私たちはその狭間で苦します」とありますが、どういうことどういうことの間で苦しむのですか。説明しなさい。

問10 —— 部⑥「この苦しみは、人間が社会性をもつて存在する種であり続ける限り、根本的に解消されることはない」とありますが、それはなぜですか。「コミュニケーション」と「必要」という言葉を使って、五十五字以内で説明しなさい。(句読点も字数にふくみます。)

(一)の問い合わせと(二)の問題は裏にあります。

【二】の問い合わせ

問い合わせ用紙

問一　——部①「急いでコウジの家にやつてきた」とあります、これはなぜですか。説明しなさい。

問2　——部②「つばを飲み込み、ちょっと休憩した」とありますが、この時のユウスケの気持ちを説明しなさい。

問3　——部③「何も言えなくなつた。」のまま一生、言葉がしゃべれなくなってしまったのではないかとさえ思つた」とあります、これはなぜですか。説明しなさい。

問4　——当てはまる言葉として最も適当なものを、次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア　なんで? なんでそんなこと言うん?

ウ　ひどいわ。ぼくのことだましてたん?

オ　ほんまに? おもしろいと思つたん?

イ　ぼくのことはもうないなん? 友だちやる?
エ　ぼくのことは、なんでそう思つてたん?

問5　——部④「とてもゆるしてやれるような気持ちになれなかつた。いくらあやまられても、ゆるせなかつた」とありますが、このようにユウスケが思つたのはなぜですか。次の文の空欄に当てはまる文を、本文より十四字で抜き出しなさい。(句読点も字数にふくみます。)

コウジが実は「
」とぼくは思つて、コウジに裏切られたように感じたから。

問6　——部⑤「ずるいけど」とありますが、どのような点がずるいのですか。七十字以内で説明しなさい。(句読点も字数にふくみます。)

問7　——部⑥「お前はやっぱアホや」とありますが、ユウスケが「やっぱアホや」と感じたコウジの言動として最も適当なものを、次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア　女子を笑わせよつとしてユウスケとミカのうわさを流しただけでなく、それを流したのが自分であることを正直に話したといふ。
イ　女子を笑わせようとしてユウスケとミカのうわさを流しただけでなく、ミカと仲良く話すユウスケにも腹を立てているといふ。
ウ　好きなミカのことを悪く言つてだけでなく、あとでゲームソフトをあげることでユウスケにゆるしてもらおうとしているといふ。
エ　好きなミカのことを悪く言つて自分に腹を立てているだけでなく、ミカと仲良く話すユウスケに対しても腹を立てているといふ。
オ　ほかの男子と話すミカに腹が立つ理由がわかつていらないだけでなく、ユウスケにも腹が立つ理由が自分でわかつていらないといふ。

問8　——部⑦「ひかれた」と同じ意味のものを、次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア　夕方の音楽室で、先生がピアノをひかれた。
ウ　ヨーロッパの美しい山々の景色にひかれた。
オ　たくさんのおもちゃに、後ろ髪がみをひかれた。

イ　元の値段より二割ひかれたので、うれしい。
エ　大型自動車にひかれたが、けがはなかつた。

問9　——部⑧「自分のことが悲しい」とありますが、ユウスケがそのように思うのはなぜですか。この時のユウスケの気持ちを説明したものとして最も適当なものを、次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア　「ぼく」に向かつてあやまつて「コウジをゆるしてあげなければいけない」とはわかっているが、うわさを流したコウジを責めるひどい言葉を言つたり、えらそくな態度をとつたりした自分を反省し、コウジに対し申し訳なく思つたから。
イ　コウジが場をなごませようと「ぼく」をゲームにさそつてくれたにもかかわらず、自分の気持ちを整理することに夢中になり、その場の雰囲気をこわしただけではなく、コウジを傷つけるような行動をとつた自分の無神経さにうんざりしたから。
ウ　うわさは一度流れたら消えることがないので、これからずっと「ぼく」はそのうわさに振り回されて生きていくのだと心配になり、コウジをやるしてあげなければいけないことなど忘れてしまつた自分の自己中心的な性格を情けなく感じたから。
エ　謝罪を受け入れるつもりだったのに、うわさを流した張本人であるコウジのふてぶてしい謝罪の態度が「ぼく」に悪いことをしたと心からあやまつてゐるようには思えず、コウジをゆるしてあげることができない自分の弱さにがっかりしたから。
オ　うわさを流した張本人であったものの、コウジは「ぼく」に対してウンをついたり言い訳をしたりせずに、自分のしたことを認めてあやまつてゐるのに、そんなコウジのことをゆるしてあげることができない自分の心のせまさを実感したから。

【三】作文の問題

一人ひとりが自分らしくのびのびと過ごせるクラスにするために、あなたはクラスのみんなとどういう活動をしますか。活動の具体的なアイデアと、その理由を三百字以内で書きなさい。